

平成 28 年（2016 年）の秋サケの資源状況について

平成 28 年 6 月 30 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

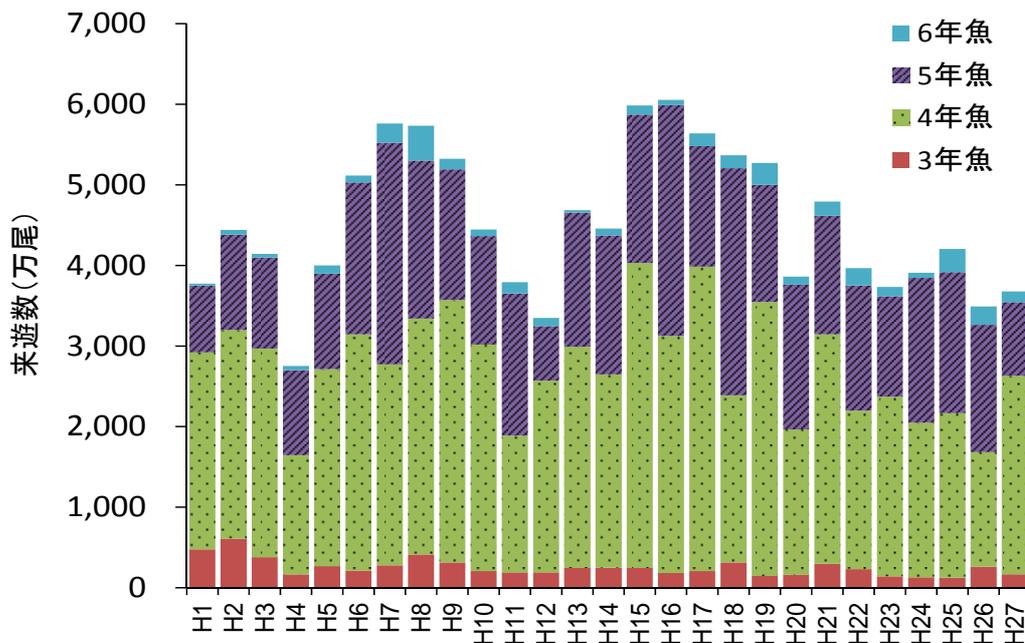


図 1 最近の北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

平成 27 年の北海道への秋サケ来遊の特徴

平成 27 年（2015 年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は 3,682 万尾にとどまり、前年より 5%増加したものの、平成 26 年に引き続き、4,000 万尾を下回る来遊数となりました。

年齢別に見ると、主群である 4 年魚（平成 23 年生まれ）が 2,462 万尾（来遊数全体の 66.9%）と最近では平成 21 年に次いで数多く来遊しました。一方、5 年魚（平成 22 年生まれ）は 915 万尾と平成 13 年以降では最も少ない来遊となりました。また、3 年魚は 169 万尾と平成 26 年の 264 万尾を下回ったものの、平成 26 年は最近としては数多く来遊した年であり、これを除くと平成 27 年は平均的な来遊数となっていました。

時期別に見ると、前期（1,922 万尾、前年対比 106.3%）、中期（1,495 万尾、前年対比 104.1%）、後期（265 万尾、前年対比 100.4%）といずれも前年をやや上回る来遊数でした。

魚体サイズは平成 24 年に顕著に小型化しましたが（平均目廻り 3.10 kg）、平成 27 年はほぼ平均的なサイズとなりました（3.43 kg）。

各海区への来遊状況

昨年の各海区への来遊数をみると、5年魚が日本海を除いて前年を下回ったものの、主群である4年魚が各海区ともに前年より多く回帰したため、えりも以東を除く海区では、全体として前年よりも来遊数の増加がみられました。なお、3年魚はえりも以東で前年より若干増えたものの、その他の海域では前年を下回りました。

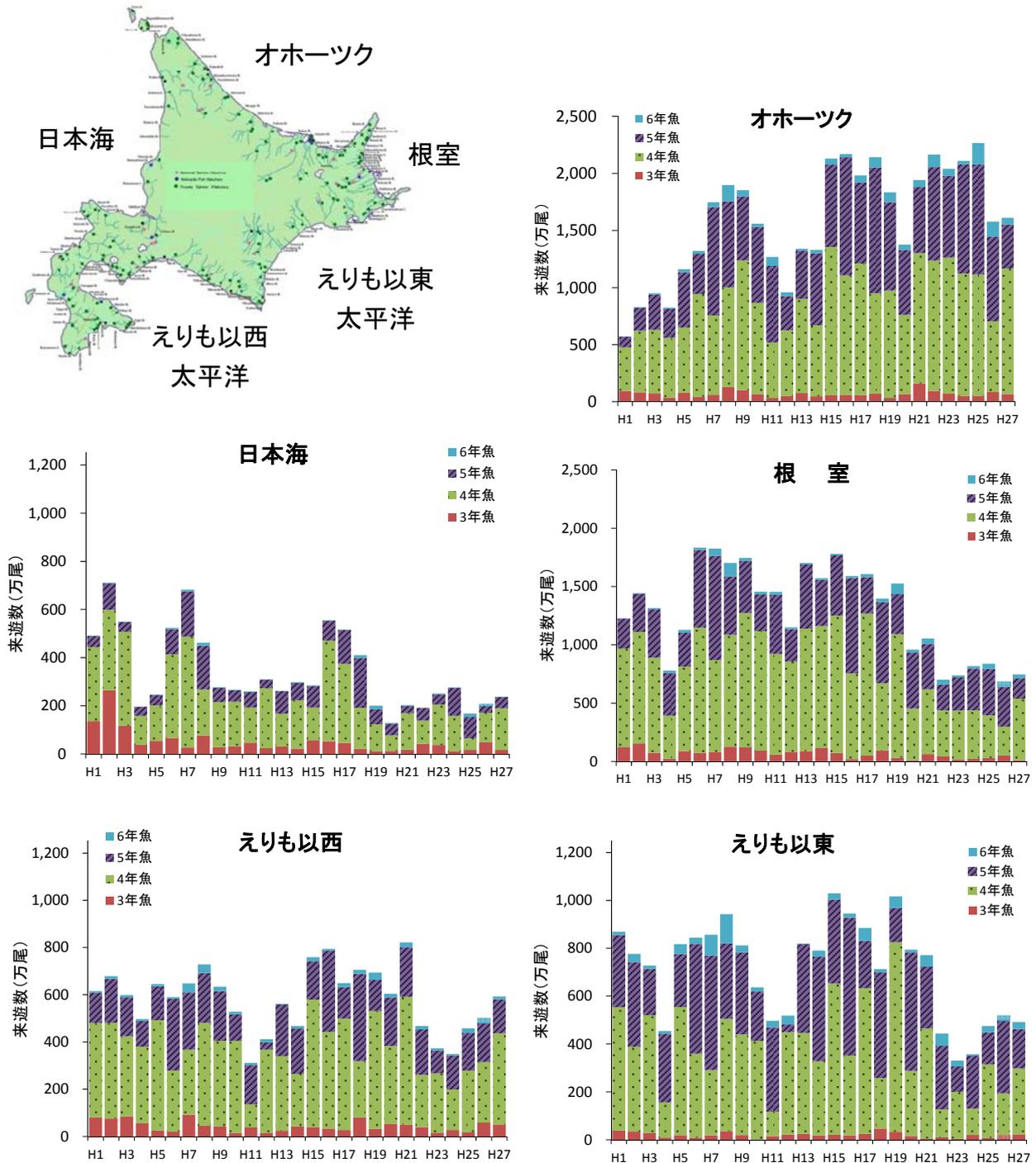
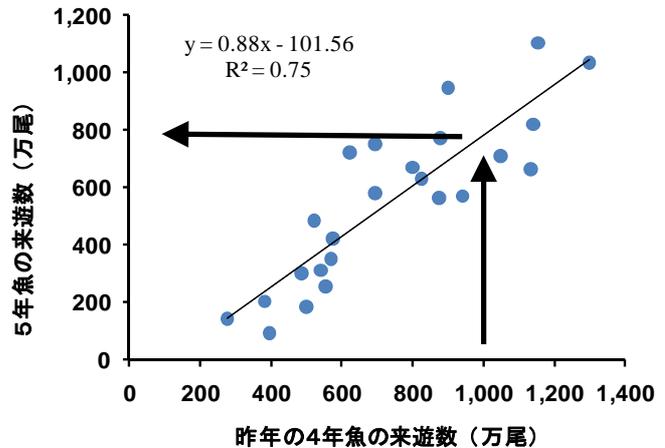


図2 最近の各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(平成 28 年)の来遊予測

昨年までと同様にシブリング法という手法を基本として今年の来遊数を予測しました。この手法では、昨年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、昨年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します。

平成27年の3年魚の来遊数が少なかった地区では、今年の4年魚の回帰が少ないと予想され、全体として昨年よりも来遊数の下回る地区がみられています。



今年の予測値

平成28年(2016年)の全道への秋サケ来遊数は3,901万5千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のようになっています。

海 区	地 区	平成28年 予測値(千尾)	平成27年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	9,893	7,856	125.9
	中 部	4,560	4,296	106.1
	西 部	3,396	3,962	85.7
	小 計	17,849	16,115	110.8
根 室	北 部	5,993	5,340	112.2
	南 部	1,715	2,128	80.6
	小 計	7,709	7,467	103.2
えりも以東	東 部	1,298	1,456	89.2
	西 部	3,835	3,459	110.9
	小 計	5,133	4,915	104.4
えりも以西	日 高	2,482	2,519	98.5
	胆 振	1,606	1,612	99.6
	噴火湾	996	1,011	98.5
	道 南	1,038	798	130.1
	小 計	6,122	5,940	103.1
日 本 海	北 部	752	970	77.5
	中 部	1,084	973	111.4
	南 部	367	441	83.1
	小 計	2,203	2,384	92.4
北 海 道 総 計		39,015	36,821	106.0